

令和8年度 第1回東部地区交通協議会

日時：令和8年4月21日（火）19：00～20：30
場所：区民センター社会教育館 7F 701 会議室
（目黒区目黒二丁目4番36号）

次 第

1 経過等

関係機関との調整経過について

2 議題

- （1）さんまバスの利用実績について
- （2）アンケート調査結果について
- （3）乗車率向上等に向けた取組について
- （4）今後の進め方について

3 配布資料

- 資料1 関係機関との調整経過（令和8年2月開催：地域公共交通会議）
- 資料2 さんまバス利用実績について
- 資料3 アンケート調査結果について
- 資料4 乗車率向上等に向けた取組について
- 資料5 今後の進め方について
- 資料6 令和7年度第2回東部交通協議会 議事要旨

以 上

1 「目黒区地域公共交通会議」の開催概要

令和8年2月16日に開催した、令和7年度第2回目黒区地域公共交通会議（以下「交通会議」という）において、東部地区での地域交通導入の実績と今後の進め方、北部地区での地域交通導入に向けた地域の取組状況、サンクスネイチャーバスの自家用有償旅客運送への運行形態変更について、を報告した。東部地区については、取組経過、さんまバスの利用状況、令和7年10月からの1日乗車券の値上げの実施と令和8年4月からの普通運賃と回数券の設定変更とアプリ回数券を導入しており、目黒区総合庁舎や厚生中央病院・東京共済病院でのPR動画の配信を予定、今後の取組を報告し、高齢者に対する利用率向上を目的とした割引施策の導入について異議はなかった。今後、会議でいただいた意見をもとに、取組経過を取りまとめ、適宜交通会議へ報告することが確認された。



地域公共交通会議の開催状況

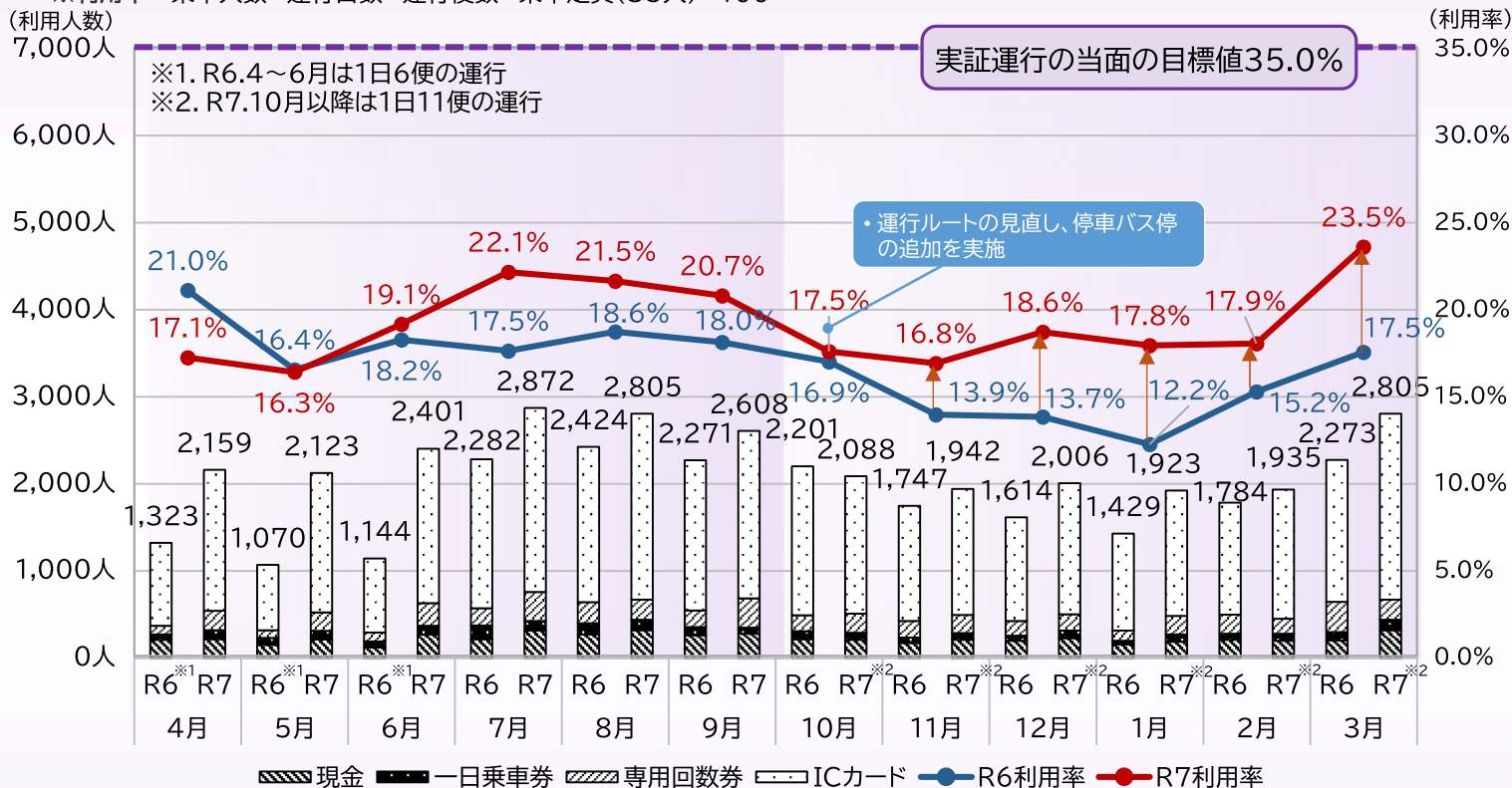
名 称	令和7年度 目黒区地域公共交通会議（第2回）
開催日時	令和8年2月16日（水）10:00～11:30
会場	目黒区総合庁舎 4階 政策会議室（東京都目黒区上目黒 2-19-15）
出席者	24名内オンライン出席者3名、傍聴者0名
主な意見 東部地区	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者以外の妊婦等に対する割引の検討について高齢者割引の効果検証を行いながら引き続き検討する。高齢者割引の認知されるまで一定の期間が必要と考えられるため、周知広報活動は継続して行う必要がある。 ・Google マップ等への経路検索が可能であれば利用率の向上に効果があるように感じる。 ・割引施策として、区役所利用者に対して、利用券の配布や選挙投票日は無料で運行するほか、東急バス全線定期券所持者向け割引等も考えられる。 ・さんまバスの利用啓発について、東急バスにて田道小学校の生徒が車内アナウンスを実施したことがあり、さんまバスでも車内アナウンスや子供の絵を展示し、

	<p>子供や保護者への利用啓発につなげられると考える。</p>
	<p>・現在の利用率は目標の半分程度であるため、利用者増加の施策を検討しているが、実施効果を把握する必要がある。高齢者割引を考慮した1便当たりの必要乗車人数の試算を行ってはどうか。</p>
	<p>・地域住民がなぜ運行しているかを理解し、地域で支えるという意識を持ってもらう必要がある。利用率、収支率の目標が未達の場合は、継続困難になると広く周知するべきで、認知度向上の取組や運行目的等の周知は引き続き検討していただきたい。</p>

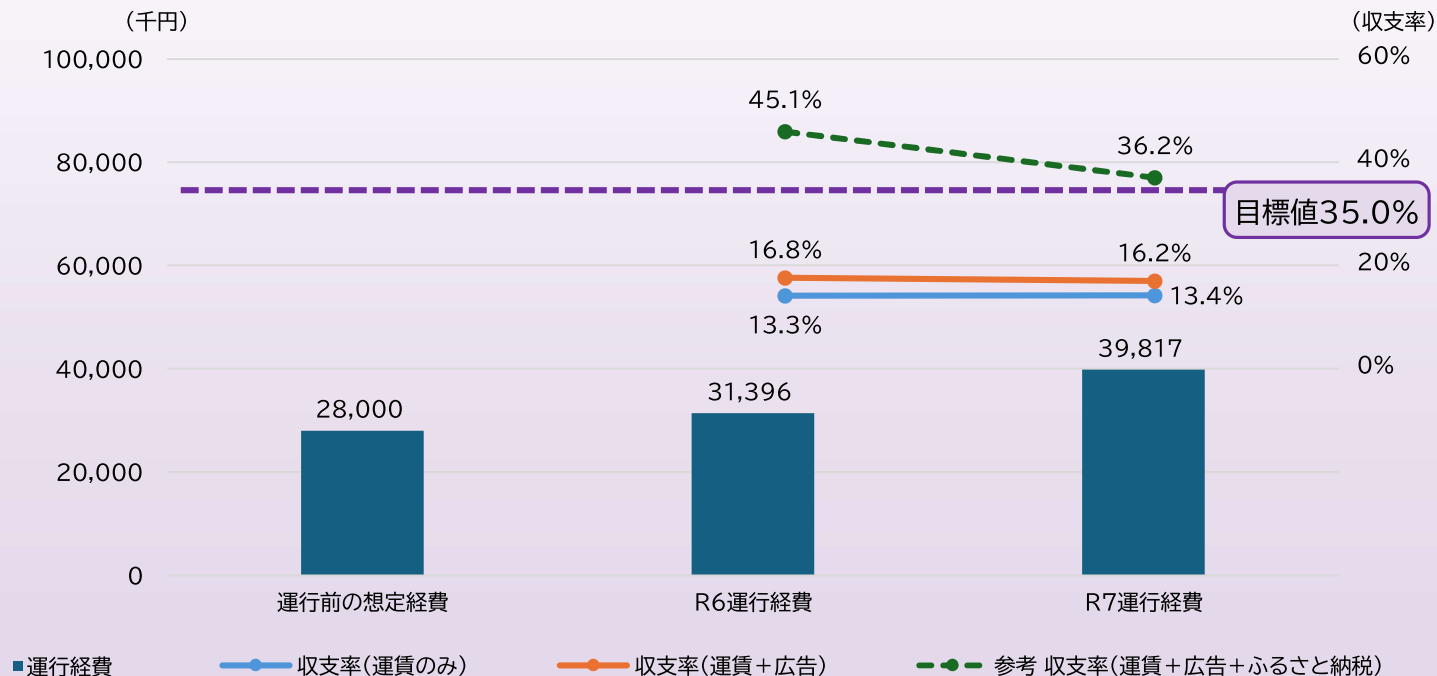
- 令和7年度の利用率は1日12便運行の4～9月で平均19.5%、1日11便運行の10～3月で平均18.7%、4月から3月までの平均では19.1%となっており、当面の目標値35%には達していない。
- 令和7年10月に実施した運行ルートの見直しバス停の追加により、令和7年度の11月から3月の利用率が令和6年度の11月から3月と比較して増加している。
- 令和7年度の運行経費による収支率は運賃収入のみでは13.4%、運賃収入+広告収入で16.2%となっている。運賃収入+広告収入では令和6年度の16.8%と比較して令和7年度は低下しており、当面の目標値35%には達していない。
- 人件費や電気料金の高騰を受け、運行経費が増加しており、運賃収入は増加しているが、収支率は低下している。なお運行経費については今後も増加が見込まれる。

令和7年度と令和6年度の利用実績の比較

※利用率 = 乗車人数 ÷ 運行日数 ÷ 運行便数 ÷ 乗車定員(35人) × 100



運行経費および収支率の年次比較

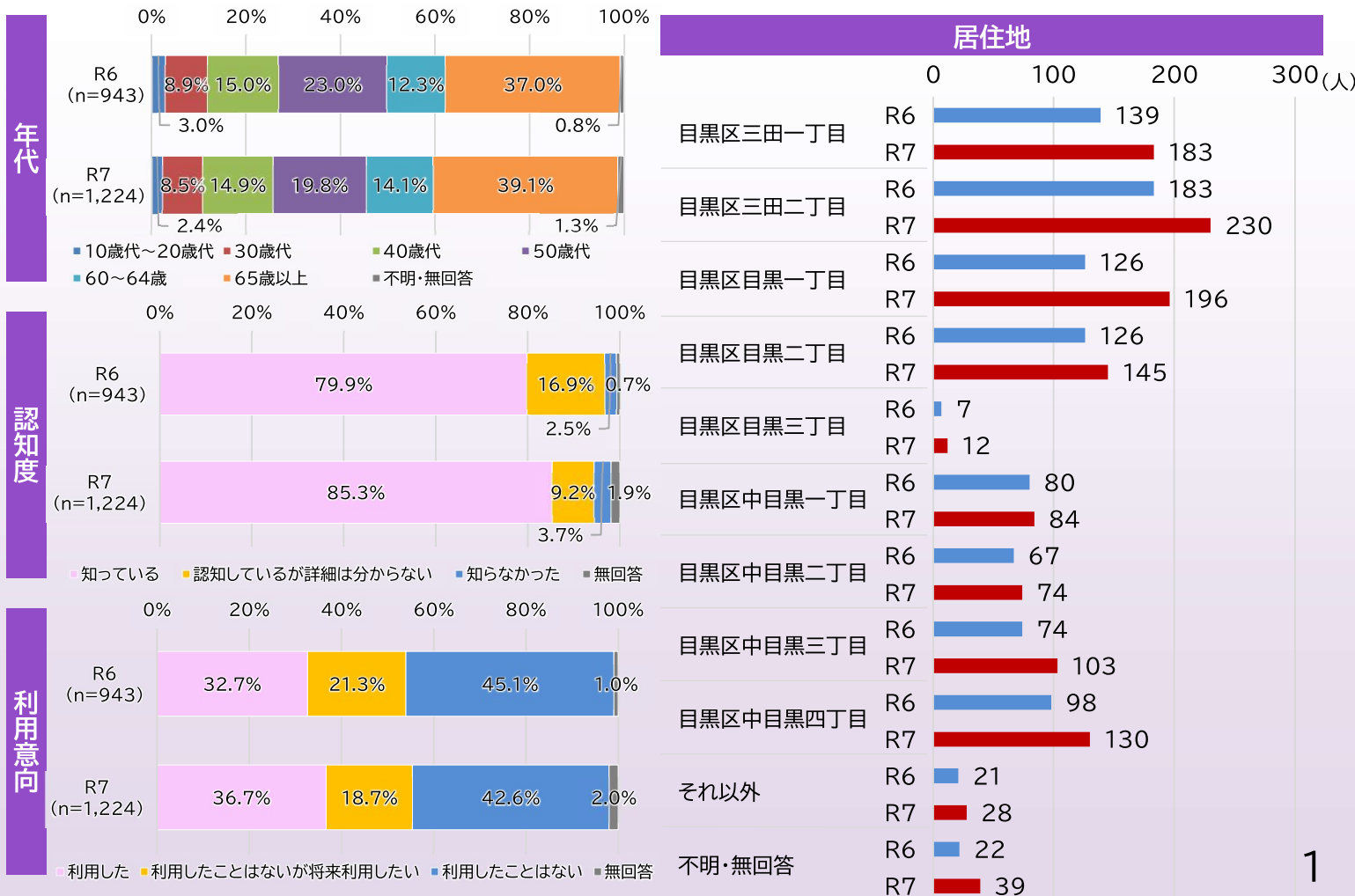


・さんまバスの実証実験運行の認知度や利用傾向、満足度を把握し、より良いサービスとするためにアンケート調査を実施した。
 →アンケート結果の分析を行い、令和7年度に実施した利用促進策の効果検証を行うとともに、利用率増加や満足度の評価上昇に向けた取組を検討する。

■アンケート調査の概要

項目	内容
実施目的	さんまバス運行開始後の満足度について把握する
対象	東部地区内ポスティング15,267世帯へアンケート調査を実施
回答件数	合計1,224件（内訳：紙772件、WEB452件） 回答率 約8.0%
回答期間	令和7年11月25日(火)～令和8年1月31日(土)
回答方法	アンケート用紙に同封されたはがきにて郵送回答 / WEB回答
アンケート項目	<ul style="list-style-type: none"> ●さんまバスの実証運行の認知について ●さんまバスへの回答者の考えについて <ul style="list-style-type: none"> ・さんまバスを利用したことがあるか ・利用した際の目的、利用日時、利用頻度について ・ご乗車時に利用したバス停について ・さんまバスを利用していない理由について ●さんまバスの実証運行による印象について <ul style="list-style-type: none"> ・満足度(移動利便性向上、外出機会増加、地域コミュニティへの参加機会増等) ・さんまバスの運行によって免許返納がしやすいと思うか ・さんまバスの利用促進施策の認知度ならびに利用しやすくなるかどうかの印象 ・地域の皆さんにさんまバスを利用してもらうための改善点

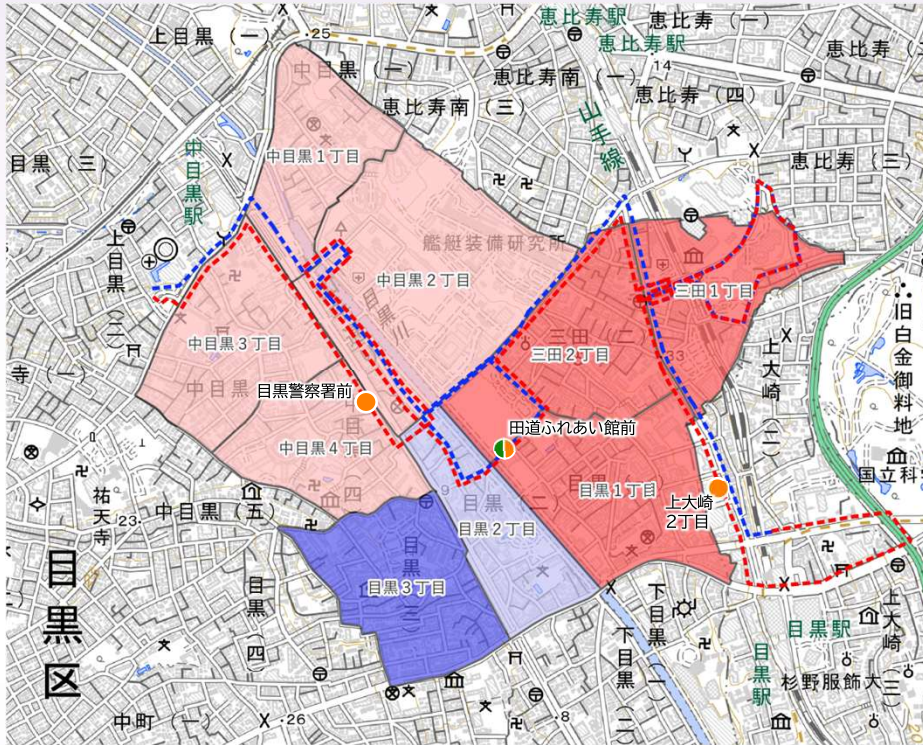
■アンケート結果の概要



(2)アンケート調査結果について

- さんまバスを含んだ路線バスの利用状況を令和4年度アンケート(実証運行前)と令和7年度を比較すると、さんまバスの運行路線沿線の三田1丁目・2丁目、目黒1丁目、中目黒1～4丁目が増加傾向にある。
- 令和6年度における増加率との比較では、目黒1丁目と中目黒3丁目が増加傾向が顕著であり、田道ふれあい館前へのルートの見直しや、上大崎2丁目等のバス停の追加の効果があったと思われる。
- 中目黒2丁目は、令和6年度から減少しているものの、令和4年度からは増加している。

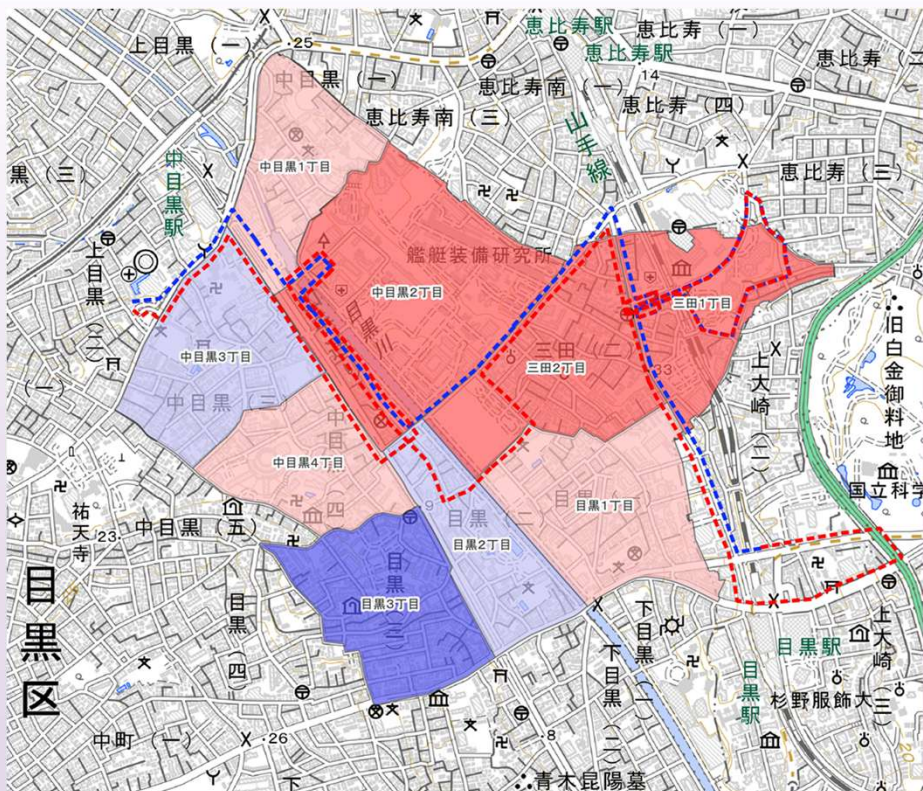
路線バス利用割合の増加率（R4調査結果とR7調査結果の増減）



凡例	
■ -5%以上減少	■ -5～0%減少
■ 0～5%増加	■ 5%以上増加
— 往路(総合庁舎～目黒駅前)	● 復路のみ停車の追加バス停
- - - 復路(目黒駅前～総合庁舎)	● 両方向停車になったバス停

※よく利用する移動手段について、令和4年度は単一回答、令和7年度は3つまでの複数回答としたため回答の重みづけ処理(例:2つ回答した場合はそれぞれ0.5として集計)を行い分析を実施している。

路線バス利用割合の増加率（R4調査結果とR6調査結果の増減）



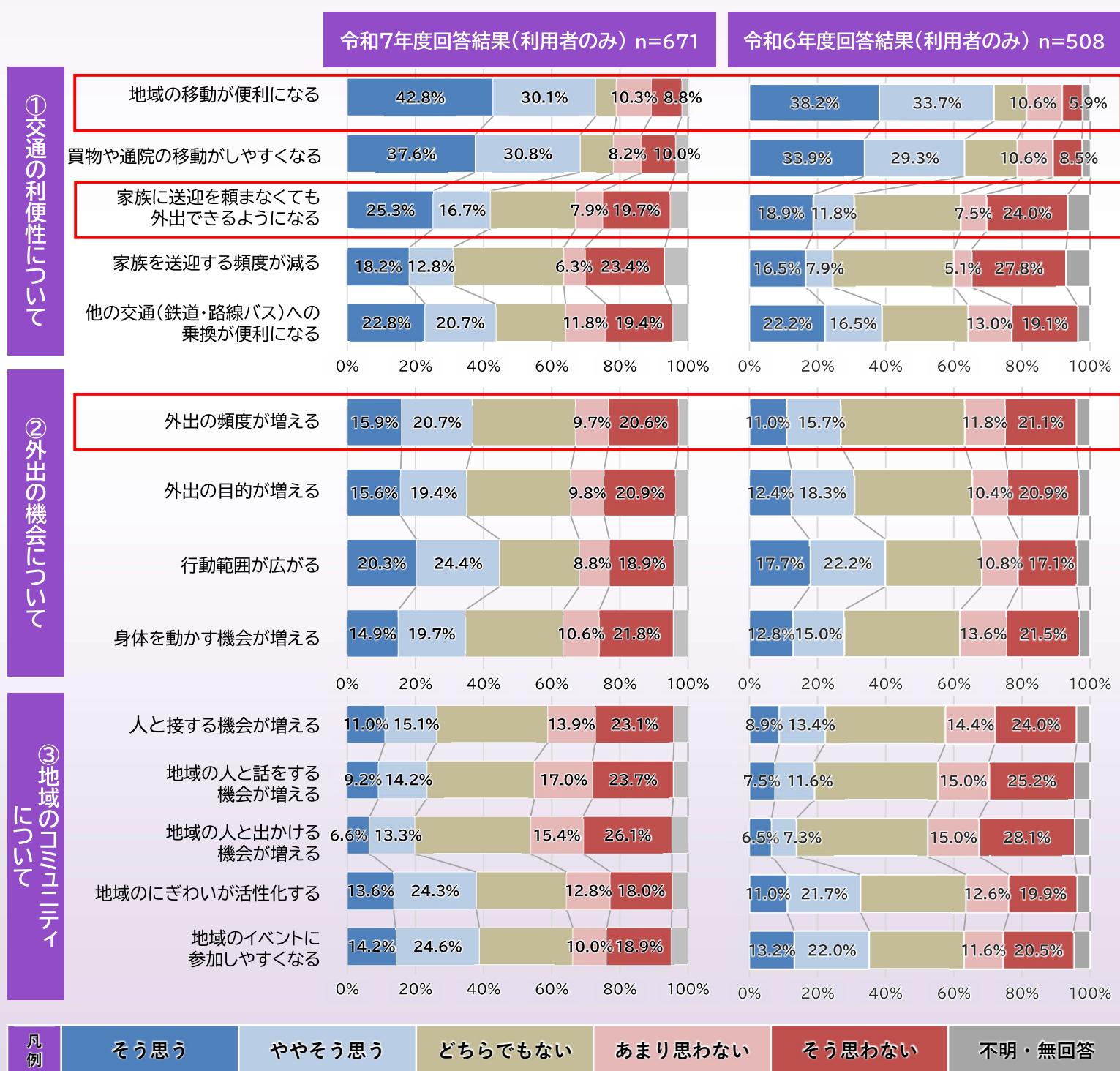
凡例	
■ -5%以上減少	■ -5～0%減少
■ 0～5%増加	■ 5%以上増加
— 往路(総合庁舎～目黒駅前)	
- - - 復路(目黒駅前～総合庁舎)	

※よく利用する移動手段について、令和4年度は単一回答、令和6年度は3つまでの複数回答としたため回答の重みづけ処理(例:2つ回答した場合はそれぞれ0.5として集計)を行い分析を実施している。

(2) アンケート調査結果について

■ 令和6年度に実施したアンケート調査との比較

- 利用者・利用意向のある人に絞った地域交通への印象を令和6年度アンケート調査と比較すると、すべての項目で「そう思う」「ややそう思う」の回答割合の合計が増加しており、満足度が向上している。
- 項目別にみると、令和6年度でも高評価であった「地域の移動が便利になる」はさらに肯定的な回答割合が増加しており、約73%となっている。
- 「外出の頻度が増える」については肯定的な回答割合が約10%増加、「送迎を頼まなくても外出できるようになる」では約12%増加している。
- 評価の視点別にみると、「地域のコミュニティについて」の満足度は令和6年度から向上しているが、「交通の利便性について」「外出の機会について」と比較すると「そう思う」「ややそう思う」の回答割合は低くなっており、今後改善すべき課題として挙げられる。

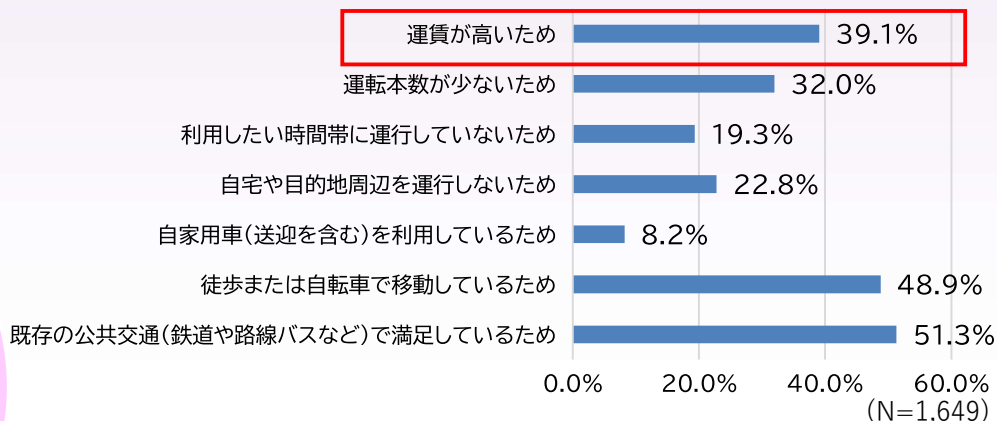
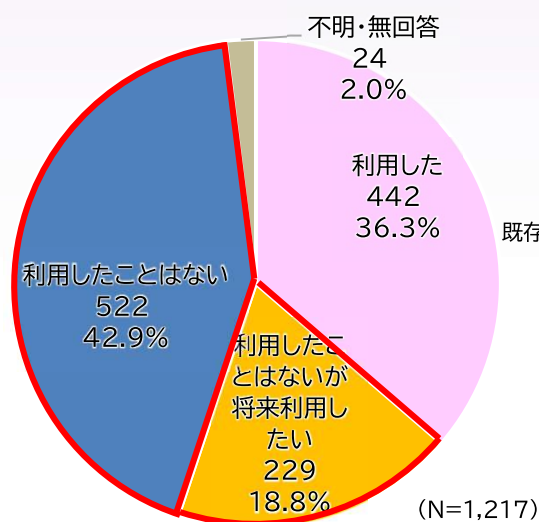


(2)アンケート調査結果について

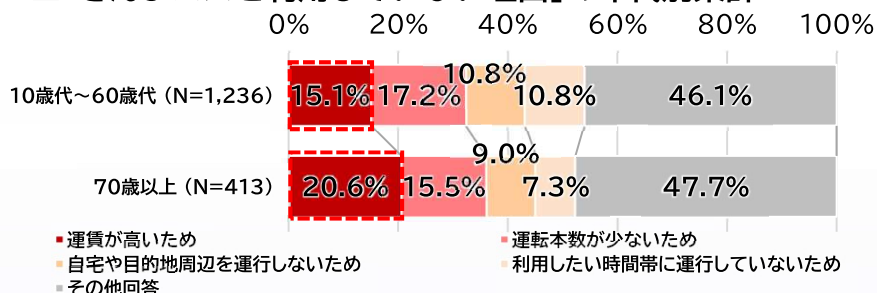
- さんまバスを利用していない人の割合は42.9%、「利用したことはないが将来利用したい」と「利用したことはない」の合計は6割以上となっている。
- さんまバスを利用していない理由について、「徒歩または自転車で移動しているため」「既存の公共交通(鉄道や路線バスなど)で満足しているため」など他の交通手段に関する事項が多く挙げられているが、運行に関する理由としては「運賃が高いため」が最も多くなっている。
- 「運賃が高いため」の年代別割合としては高齢者が多くなっており、高齢者に対する運賃の割高感の軽減により利用率の向上が期待できる。
- 自由回答では運賃が高い、シルバーパスの適用を求める意見やGoogleMapへのバス停掲載を求める意見がみられた。

さんまバスの利用意向 (R7アンケート結果)

さんまバスを利用していない人・将来利用したい人の利用していない理由 (R7アンケート結果)



「さんまバスを利用していない理由」の年代別集計



自由回答 (R7アンケート結果)



【さんまバスの運行について】

- ・とても便利で移動がしやすく、目黒区役所へ行く時等、非常に良いです。(60～64歳)
- ・「田道ふれあい館前」では往復で停車するようになりよかった！(70歳以上)



【さんまバスの運賃について】

(さんまバスを利用していない70歳以上の方の回答)

- ・コミュニティバスなので、料金を安くしないと利用頻度は増えないと思います。
- ・年金生活者にとって運賃が高いと思います。シルバーパスが使えるたら助かりますが…
- ・シルバーパスを使えるようにしたら、もっと利用者が増えると思う。今なら、路線バスと徒歩による手段でカバー出来ている。
- ・シルバーパスを使っているのでさんまバスは使用しません。



【さんまバスの運行情報について】

- ・Googlemapの検索で全く出てこないため、使いたくても所要時間が読めず使えません。(40歳代)
- ・Google地図や乗り換え案内などの検索サイトに時刻が出てこないの、使いにくそう。(30歳代)

- ・高齢者割引施策に関して、目黒イーストエリア桜まつり等でのチラシ配布による周知、また4月より目黒区総合庁舎・厚生中央病院でのさんまバスや高齢者割引証を紹介するPR動画の放映を開始している。また東京共済病院でもPR動画放映に向けて調整している。
- ・4月17日までの高齢者割引証の発行数は377枚となっている。特にLINEや区報、桜まつりでのチラシ配布による周知の効果がみられ、引き続き区民への広報活動を検討する。

要望 高齢者の利用に関する要望

対応策 高齢者割引施策の導入

高齢者割引の導入

- ・70歳以上の運賃割引を導入する。

現金の場合

100円 50円 250円

↓ 区独自の割引証を提示

100円 10円 130円



図 高齢者割引証


高齢者割引チラシ配布 (計3,888枚)

・住区センター等	2,528	・区総合庁舎	180
・品川区(地区センター)	30	・目黒イーストエリア桜まつり	500
・厚生中央病院	100	・目黒駅周辺まちづくり懇談会	50
・東急バス目黒営業所	100	・三田町会総会	40
・さんまバス車内	70	・恵比寿ガーデンテラス壱番館290	

情報周知施策

A 目黒イーストエリア桜まつりでの周知・広報活動

- ・3/29の目黒イーストエリア桜まつりに合わせ、本部横にポスターを掲示し、高齢者割引チラシを500部配布、同時に割引証を発行した。またイベントパンフレットに折り込んでさんまバスのリーフレットを600部配布した。






配布の様子(上)とチラシ(右)

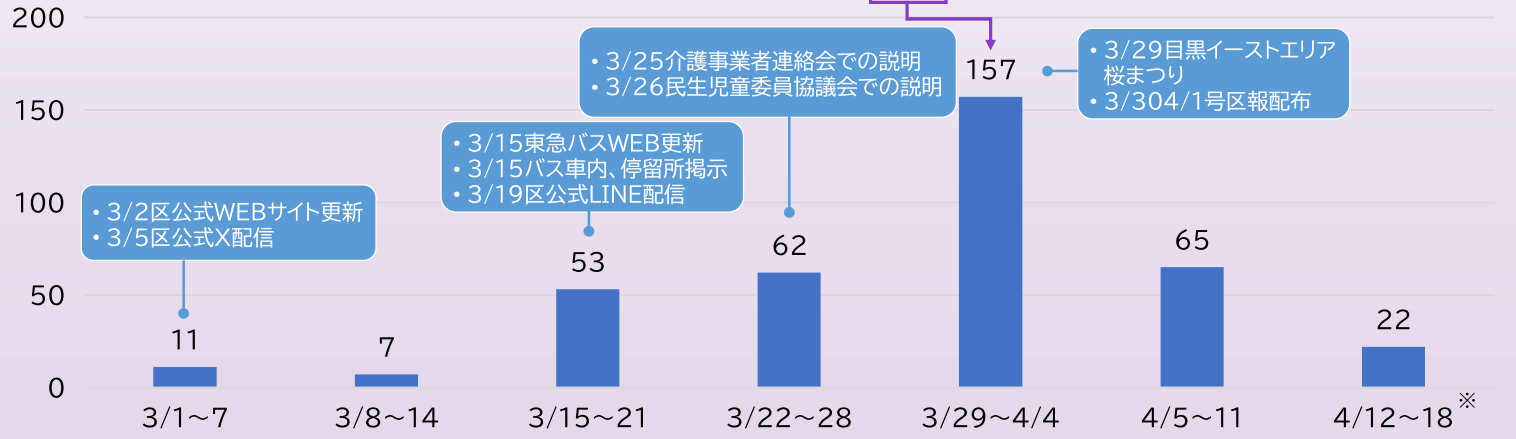
B PR動画の放映

目黒区総合庁舎・厚生中央病院にて4月よりPR動画の放映。

- ・さんまバスの概要紹介
- ・さんまバスのルートと沿線主要施設を紹介
- ・バス停案内
- ・運賃と高齢者割引の紹介

■ 高齢者割引証の週間発行数(※令和8年4月17日現在)
発行数合計:377枚



1 さんまバスの利用促進に関する取組について

東部地区交通協議会の取組として、4月より高齢者割引を開始した。併せて高齢者割引の周知、厚生中央病院・目黒区総合庁舎といった沿線施設でデジタルサイネージによるさんまバスのPR動画の放映を実施している。引き続きニュースレターの配布やGoogleMap等の経路検索サイトでの案内表示等、利用者増加に向けた取組を実施していく。

2 本格運行を目指した実証実験運行の事業評価について

実証実験運行の継続判断は昨年度と同様に、以下3つの基準項目を評価する。

利用率	収支率	満足度
<ul style="list-style-type: none">利用者数 月毎の利用者数集計 <p>※利用状況の把握 バス停毎の利用傾向</p>	<ul style="list-style-type: none">運賃収入広告収入 車体ラッピング広告 車内ポスター広告等その他収入 サポーター収入	<ul style="list-style-type: none">日常移動の利便性の向上高齢者の外出機会向上地域コミュニティの創出

実証実験運行の当面の目標値

実証 35%以上	実証 35%以上	アンケート調査の満足度								
目標値(往復) 12.2人/便 R6実績(往復) 5.8人/便 R7実績(往復) 6.7人/便	<table border="1"><thead><tr><th></th><th>R7実績</th><th>R6実績</th><th>当初計画</th></tr></thead><tbody><tr><td>運賃+広告</td><td>16.2%</td><td>16.8%</td><td>23.0%</td></tr></tbody></table>		R7実績	R6実績	当初計画	運賃+広告	16.2%	16.8%	23.0%	すべての項目で満足度は向上 「地域の移動が便利になると思う」約73% 「外出頻度が増えると思う」R6から約10%増 「送迎を頼まなくても外出できる」R6から約12%増
	R7実績	R6実績	当初計画							
運賃+広告	16.2%	16.8%	23.0%							

R7の評価

R6と比較して、人件費や燃料費などの高騰により、運行経費が増加しているため、収支率は減少傾向にあるが、利用率・満足度は増加傾向にある。一方で、利用率・収支率ともに目標値35%に達しておらず、引き続き利用者増加に向けた取組が必要である。今後も運行経費の増大が予想されるため、当初目標値35%の再設定について検討する。

利用者増加に向けた取組

- 高齢者割引の実施
- アンケート(満足度の集計評価)+ニュースレター(定期的な広報による周知)
- バス広告掲載の周知等
- サポーター制度(運行支援寄付)の周知
- 経路検索サイトでの案内表示

実証実験運行の評価